

平成16年度「佐賀環境フォーラム」実績報告

1 実施体制

(1) 組織体制 組織体制は、佐賀大学・学生スタッフ・市民・佐賀市で構成する実行委員会形式。

(2) 事務分担

□実行組織:佐賀大学・学生スタッフ・市民〔講義・ワークショップの企画、教室・機材の手配、受講者誘導・講義資料の印刷などの運営全般。〕

□事務組織:佐賀市〔広報・市民・企業受講者の募集・受付、現地見学の企画・手配、経理事務。〕

2 受講状況等

(1) 受講要件

◇市 民 : 居住条件等制限なし(県内外問わず)・50名まで

◇企 業 : 所在制限なし(県内外問わず)・10社まで

◇学 生 : 佐賀大学学生・佐賀大学以外の大学・専門学校生・高等学校生徒

(2) 受講料 (年間:前期・後期)

◇市 民 : 5,000円

◇大学生・高校生 : 1,500円 (※佐賀大学学生は大学で募集:無料)

◇スポット受講者 : 2講義につき 1,000円

◇法 人 : 1口 5,000円 ※1口で1人の枠とし、誰が来ても良い。

(3) 受講者数

■ 一般74名 (一般33名,スポット受講者41名) ■ 法人14名(9社) ■ 学生107名(含むスタッフ28名)

3 講 義

(1) 概 要

講義は、働いている市民が参加しやすいよう夜7時から開始。環境について様々な視点から勉強できるよう、佐賀大学の教授陣のほか、他大学の教授、企業の担当者、行政担当者など各分野の講師からなるオムニバス形式。

(2) 講義内容

■講義日 火曜日・木曜日 [平成16年5月27日(木)～平成16年7月13日(火)]

■時 間 19:00～20:30(講義90分)

■場 所 佐賀大学教養教育運営機構2号館211番教室

	月 日	曜	講 義 題 目	講 師	
1	5月27日	木	開講式		
			環境問題総論	佐賀大学理工学部教授	宮島 徹
2	6月1日	火	棚田の現場から環境・農業・食の再生を考える	佐賀大学農学部助教授	五十嵐 勉
3	6月3日	木	食資源循環による環境保全	NPO法人伊万里 はちがめプラン理事長	福田 俊明
4	6月8日	火	世界の水環境とは？	日本水フォーラム準備室 事務局長	尾田 栄章
5	6月10日	木	佐賀県の水環境	佐賀県副知事	川上 善幸
6	6月15日	火	取材記者が考える環境問題	佐賀新聞社報道局記者	日高 勉
7	6月17日	木	職場の環境と健康	佐賀大学医学部助教授	市場 正良
8	6月22日	火	干潟生態系“有明海と韓国での現地調査”	佐賀大学農学部教授	武田 淳
9	6月24日	木	省エネルギー・低公害車の開発	本田技研工業(株)環境 安全企画室社会環境主幹	山下 宏
10	6月29日	火	北九州市のエコタウン事業の取り組み	北九州市環境局環境産業 政策室次長	小林 一彦
11	7月1日	木	エネルギーと環境の共生“循環型社会に向けて”	佐賀大学理工学部教授	門出 政則

12	7月6日	火	環境が脳に与える影響、脳が環境に与える影響	ソニーコンピュータサイエンス研究所(株) 研究員	白石 哲也
13	7月8日	木	佐賀市の環境行政	佐賀市長	木下 敏之
14	7月13日	火	農林漁業で発生するバイオマス廃棄物を利用した汚染環境の浄化	佐賀大学理工学部教授	井上 勝利

4 現地見学

(1) 概 要

「現地見学」は、現地で実際に見て体感してもらうことで、机上の環境問題と自分の身近な環境とを直接結びつけて考えてもらいたいとの思いから「エネルギー」「自然」「森と川と海」を主テーマに、現地での体験・見学を実施

(2) 見学会：6月5日（土）

- ①エネルギー：一般・法人 8名、学生 9名、事務局 3名、 計20名参加
佐賀市清掃工場、佐大海洋エネルギーセンター、肥前町風力発電
- ②自 然：一般・法人 10名、学生 3名、事務局 4名、 計17名参加
佐大附属資源循環フィールド化学教育研究センター、相知町棚田、伊万里はちがめプラン
- ③森と川と海：一般・法人 2名、学生 11名、事務局 3名、 計16名参加
富士町植林、有明水産振興センター、芦刈干潟体験場

(3) 体験講座

- ①ごみ探検隊：6月13日（日）
 - ・一般・法人 13名、学生 73名、事務局 12名、 計98名参加
 - ・大学構内5班、大学周辺2班でごみ拾いを実施し、その後、全員で構内のごみ置場を調査。
 - ・各班より調査結果の報告会を行い、最後に市の担当者より、ごみの現状について説明。
- ②水質調査：7月3日（土）
 - ・一般・法人 5名、学生 15名、事務局 8名、 計28名参加
 - ・嘉瀬・多布施川と巨勢川の2河川で実施。各河川とも上・中・下流の3地点で簡易水質調査および、水生生物調査を行った。
- ③打ち水隊：日本水フォーラム準備室の尾田栄章事務局長の講義を聞き、昔ながらの「打ち水」で暑さを和らげようと佐賀でも取り組むこととした。
 - 7月6・8日：佐賀大学正門前で「打ち水」。
 - 8月 8日：栄の国まつりパレードに参加。
 - 8月18日：市役所西玄関で「打ち水」。
 - 8月21日：嘉瀬・神野校区夏祭りで「打ち水」。

(4) 特別現地見学会の実施

講義後に特に要望が高かった北九州市エコタウンのリサイクル技術について、特別現地見学会として、現地に赴き勉強した。

日 時：1月12日（水）

見学先：北九州市エコタウン（ペットボトル・廃木材・廃プラスチック・蛍光管リサイクル）

参加者：一般・法人 5名、学生 2名、事務局他 10名、 計17名参加

5 ワークショップ

(1) 概 要

「グループ・ワークショップ」は、参加者がグループに分かれ、それぞれに研究テーマを決めて研究活動をするものです。これは、単に講義を受けるだけでなく、何が本当に正しいのかを自ら調べることで環境問題の本質を把握してもらうことを狙いとしています。

この研究の成果は、佐賀大学の目的志向型研究や佐賀市の環境施策に提案しています。

ワークショップグループ参加者 一般・法人:18名、学生:32 計:50名

(2) 研究成果発表会

参加者 一般・法人:19名、学生:18、事務局:10、市民:10 計:57名

日時：平成17年1月22日（土）13：30～

研究テーマ

- ①「ごみ問題」
- ②「環境教育」
- ③「エコツアーリズム」
- ④「佐賀大学版環境ISO」
- ⑤「佐賀の水環境」
- ⑥「シックスクール」

6 その他の試み

(1) 佐賀大学ネット授業での活用

- ☐ 講義をビデオ撮影し、これをネット授業として配信。
- ☐ 講義をDVD化し、ライブラリー。

(2) ワークショップのビデオ化

- ☐ ワークショップ研究成果発表会をDVD化。